

# 法学論文キーポイント集 2026

昇任試験は法学で差がつく！

合格に必要な法学に関する知識を  
この一冊に凝縮しているので、  
法学論文を集中的に学習したい方に最適です。

## 科目別に問題を掲載

法学論文対策で押さえておきたい問題を、科目別に計100問（憲法20問、行政法17問、刑法34問、刑訴法29問）掲載。

## 本書のポイント

- 「手書き答案」「論文問題」「簡記問題」の三部構成
- 出題傾向が一目で分かる分析データ付き
- 過去の出題傾向から予想した厳選問題
- 簡潔にまとめた答案例
- デジタルなので、目次機能や検索機能で、必要な情報をすぐにチェックできる

## 「サイバー論文集 2026」との併用がおすすめ！

「サイバー論文集 2026」と合わせて学習することで、実務科目もカバーでき、得点力アップにつながります。

※本書は、TOP2026 年3月号別冊「論文キーポイント集2026」から法学科目を抜粋・再編集したものです。

※本書は、ご購入いただいた日から2年間閲覧が可能です。

## 9

警察官 A は、振り込め詐欺対策で銀行付近を巡回していたところ、高齢者 B が ATM 機の前で携帯電話を使用しながら、今まさに紙幣挿入口に大量の現金を入れようとしているのを認めたため、同人の肩に手を掛けて制止した。警職法 5 条を論点にして、警察官 A がとるべき措置について述べなさい。

### 犯罪の予防・制止

#### 1 結論

警察官 A は、高齢者 B に対し、強制にわたらない手段により、ATM 機に現金を挿入しようとしている行為を中止させるべきである。

#### 2 警察活動の目的

警察は、個人の生命、身体及び財産の保護に任じ、犯罪の予防、鎮圧及び捜査、被疑者の逮捕、交通の取締りその他公共の安全と秩序の維持に当たることをもってその責務としている。警察の責務達成を目的としている警察活動は、多様で広範囲にわたるが、この警察活動により国の公共の安全と秩序が維持され、市民生活の安全と平穩の確保が図られている。

#### 3 警察活動の法的根拠

警察官は、警職法の規定によるほか、刑事訴訟その他に関する法令及び警察の規則による職権職務を遂行すべきものとされている。ただし、明文の根拠規定がない警察活動であったとしても、「個人の生命、身体及び財産の保護」「公共の安全と秩序の維持」を目的として行う活動は、警察法 2 条が根拠となる。

#### 4 警察手段

警職法を根拠とする警察手段については、任意活動によって目的を達成しなければならない任意手段と、即時強制によることが認められる強制手段に分けることができる。警察の責務の遂行に当たっては、その権限を濫用することがあってはならないことから、目的を達するために必要な最小限度で警察手段を用いなければならない。

#### 5 犯罪の予防・制止

##### (1) 意義及び法的根拠

警職法 5 条が根拠となる「犯罪の予防及び制止」は、警察の主要な責務である「犯罪の予防」を果たすために警察官が行う警告及び

## 1 「逮捕状に代わるもの」の概要

令和5年の刑訴法等の改正により、性犯罪被害者等の秘匿措置として、司法警察員は、逮捕状請求に際し、被疑者に対する提示用として、被害者等の個人特定事項の記載がない「逮捕状に代わるもの」の交付を請求することができることとなった(刑訴法201条の2)。

## 2 導入の趣旨

逮捕状提示の際に、逮捕状に記載された被害者の氏名等の個人特定事項が被疑者側に伝わってしまい、報復が実行されるなどの事態が生じていたことから導入された。

## 3 対象事件(対象者)

### (1) 刑法犯

不同意わいせつ罪等の性犯罪被害者。

### (2) 特別法犯

見福法違反(児童に対する禁止行為違反等)、児童買春等処罰法違反(児童ポルノ製造等)の被害者。

### (3) その他の事件

被害者の個人特定事項が被疑者に知られることにより社会生活の平穏が著しく害されるおそれ等があると認められる被害者や